

定例教育委員会会議録

(平成29年6月5日開催)

岡谷市教育委員会

定 例 教 育 委 員 会

日 時 平成29年6月5日(月)

午前10時00分

場 所 保健センター研修室

署名委員 橋爪委員 太田委員

【 次 第 】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 報 告

1. 岡谷南部中学校理科授業における事故について【資料No.1】 (教育総務課)
2. 就学援助費の単価引き上げについて【資料No.2】 (教育総務課)
3. 教員住宅の売却について【資料No.3】 (教育総務課)
4. 岡谷小学校解体工事について【資料No.4】 (教育総務課)

○ そ の 他

- ・行事等について(各課)
- ・その他

○ 視 察

- ・岡谷小学校解体工事現場

【次回開催予定】 7月5日(水) 定例教育委員会 13時30分 6階 603会議室

出席委員

教育長 岩本 博行、職務代理者 草間 吉幸、教育委員 橋爪 園美、教育委員 太田 博久、
教育委員 高木 千奈美、教育委員 藤森 一俊

事務局(説明員)

教育部長 吉澤 洋人、教育部教育担当参事 三村 靖夫、教育総務課長 帯川 豊博、
生涯学習課長 小坂 英之、スポーツ振興課長 小松 厚、教育総務課統括主幹 山田 勝由紀、
教育総務課主幹 高橋 卓、教育総務課主査 保科 圭吾

<会議録>

○開 会

岩本教育長： 6月に入りまして、急にさわやかな季節を迎えております。我が家にバラが咲いている訳ですけど、例年になく奇麗な色をだしております。天候がいつもと違って気温差があったり、バラにとっても厳しい季節かなと思いますが、それでも奇麗な色をだして頑張っている姿に「お前も頑張れよ」と何か励まされているようなそんな思いがしているところでございます。

それでは、只今より6月の定例教育委員会を始めたいと思います。本日の署名委員は橋爪委員さんと太田委員さんをお願いをいたします。

最初に私から教育長報告をさせていただきます。

○教育長報告

今日は、教育総務課関係の2点でございます。

1. 岡谷南部中学校理科授業における事故について

今回、このような事故が発生してしまったことに対しまして、教育委員の皆様には大変ご心配をお掛けいたしました。また、事故当日は、諏訪地方市町村教育委員会協議会総会と重なり、ホスト市としての対応にご尽力をいただきましたことに感謝申し上げます。

事故発生から、10日ほどが経つ訳ですが、緊急搬送されました12人の生徒たちは、体調も順調に回復し、通常どおりの学校生活に戻っております。

同様の実験での事故が、塩尻市、長野市でも発生しており、県教育委員会からも注意喚起がされたところでございます。

市教育委員会では、日頃から、学校での事故防止には万全を期して参りましたが、今回の事故発生を受け、事故原因や問題点を把握し、学校とも十分な連携を図りながら、改善策をたて、再発防止のための指導をこれまで以上に徹底してまいります。

この後の報告事項にて事故の概要についてご説明させていただきます。

2. 市内小学校運動会（上の原小除く）について

先週の土曜日でございますが、上の原小学校以外の6つの小学校の運動会がさわやかな青空の下で開かれました。委員の皆様にもご覧をいただいたところでございますけれども、どの学校でも子ども達のはつらつとして、一生懸命頑張る姿がございました。

特に印象に残ったのは、ある学校で全校女子選抜リレーの際に、一緒に練習してきた補欠の子ども達も選手と一緒に入場をして、そして、リレーのお手伝いをした後、戦い終わった選手と一緒に最後グラウンドを一周した訳であります。リレーに出なかった悔しさもあったかなあと思った訳ですけど、学校のこの温かな配慮のおかげで、補欠の子ども達の胸を張ってグラウンドを一周する姿に、大きな拍手が送られたのかなあと思いました。来年は、走りに磨きをかけて選手として出場しろよという励ましの拍手であったのかなあ、そんな風に嬉しく聞いておりました。

このように運動会は、子ども達が大きく成長する行事でございます。子ども達一人ひとりの頑張りをしっかりと褒めることが出来た、そんな運動会になったこと、そして、怪我等なく安全に運動会ができたことを大変嬉しく思っているところでございます。委員の皆様もこの後感想等をいただけたらありがたいなあと考えております。

以上、教育長報告とさせていただきます。

岩本教育長： それでは、運動会に行つての感想等ありましたらお願いいたします。

高木委員： 教育長先生から今、お話がありましたが、どの学校の子も本当に生き生きと自分の種目に取り組んでいて、頑張っているんだなあと思いました。日頃一生懸命練習していても、当日、かけっこで転んでしまつたりとか、上手くバトンが渡せなかつたりということがありますが、そういうアクシデントがあつた時にも、どの子もそこで怯まないで、すぐに一生懸命また走り出して、力いっぱい最後まで自分の力を出し切っていたという姿が印象に残りました。みんな自分の持っているものを精一杯出し切っているんだなあと感じました。

また、先生方も色々な面で工夫をなさっていて、表現ですとか今のものを取り入れながら色々と

工夫をなさっているなあと感じました。

橋 爪 委 員： 今、生き生きというお話が高木委員さんからもありましたが、やっぱり、運動会という行事は学校の持っている元気が顕在化する行事かなあと思いました。校長先生方もなんか普段お見かけするよりもいくつも若くなられたような印象で、本当に学校にみなぎっている元気を肌で感じる機会だったなあと思いました。ひとこまひとこまの場面でいうと、今、リレーでバトンを落としたり、転んでしまったりというお話がありましたけど、私もあそこは印象に残っている場面があって、その後、失敗して泣いている女の子にクラスの男の子だと思うんですけど「お前頑張ったじゃん」という声がけがあった場面にちょうど通りかかって見させていただいて、運動会の意味ってこういうところにあるんだろなっていう風なことを感じました。

それから、やっぱり、かけっこがあんまり得意でないお子さんがいて、そういうお子さんを見かけてるに付け、やっぱり子ども達の体の使い方のバランスの部分も発達を促せる取り組みが何か出来るといいなあということを感じながら見させていただきました。

草間職務代理者： 私はある学校の騎馬戦で先生達が補助に回っている姿を拝見しました。騎馬戦とか棒倒しは、かなり危険が伴いますが、競技の中で先生達が気を緩めることもなく、子ども達が怪我をしないようにサポートしている姿を見て本当に良い学校だなあと感じました。

また、リレーで一人女の子が転んでしまって、こういうのもみんな協力しながら成長していくんだなあをつくづく感じました。とても良い運動会でした。

岩 本 教 育 長： 綱引きなんかを見ても、その学校の文化といいますか、伝統といいますか、何かそういったものが感じられるような綱引きもいくつかあって、年々工夫が加えられて、本当に赤白拮抗した手に汗握るような良い綱引きが見れて、嬉しく思います。これを通常の学校生活にもうんと生きるのではないかなあと、そんなことを思っで見させていただきました。運動会については以上とさせていただきます。

それでは、報告事項に入りたいと思います。

○報 告

1. 岡谷南部中学校理科授業における事故について (教育総務課)

岩 本 教 育 長： 報告事項1について事務局より説明をお願いします。

<事務局より岡谷南部中学校理科授業における事故について説明。>

岩 本 教 育 長： 何か質問等ございましたらお願いいたします。

太 田 委 員： 事故が起きてからの学校、それから教育委員会としての対応は報告をお聞きする限りは問題なく、きちんとした対応が出来たのではないかなあということと、それから、結果的に生徒の皆さんも特に大きな影響なくということで、よかったなあと思っていますし、保護者の皆さんからのご理解をいただけたということで、対応そのものは良い対応をしていただけたのかなという風に受け止めております。その上で、結局何が起きて、どういう症状になったのかということが、ちょっと未だによく分からないところです。先ほど教育長先生からお話がありましたけれども、その他の地域でも同様の実験で色々なことが起こっている。報道でも原因を大学の先生が話をしているらしいのを拝見しても、何か二説出ているような気がしました。それで、結局どういうことが起こって、どうなったのかということが未だによく分かっていないものですから、今後どうするかという点についてですね、その点が大事なところかなあと思っておりますので、その部分を教えていただけたらと思います。

橋 爪 委 員： 私も同じ様に次に何に気をつければいいのかというところが、もし分かっていたら教えていただけたらと思います。

事 務 局： 今回の原因については、警察に入っただいて、調べているところであります。なので、はっきりとした原因は分からないんですけども、報道にありましたとおり、しっかりつめられなかったという部分もありますので、その点は改めて県の方からも指導があった内容でございます。その部分については、学校の方で今後、授業をする上で十分に注意し、

或いは複数の先生において確認をし、実験を行っていくという対応を今後していくという形になろうかと思います。新たに長野市からも出たものですから、再度県からも指導があるんじゃないかなと思いますので、そういった点を十分踏まえる中で、学校の方で注意して対応していきたいという風に考えているところでございます。

岩本教育長： 事故原因については、まだ警察の方で調査をされているようです。私達もしっかりと調べていただいて、本当に原因がなんであったかということを知った上で、対応策を講じていきたいと思っておりますが、正直いってなかなか難しい面もあるのではないかなと思います。今、課長も言いましたけれども、硫黄と鉄粉をよく混ぜなければいけないということが一つです。それから、空気が中に残らないようにしっかりとつめるということ、それから最終的には換気というこの3つが子ども達にも指導をする大きなポイントであり、この3つをしっかりとやるのが実は安全な実験に繋がるという、そこまではみんな認識をしているところですけども、つめ方がどうであったのか、或いは混ぜ方がどうであったのか、そこら辺のところはまだ、検証が必要ではないのかなとそんな風に思っております。いずれにしても、起きたことは事実でございますので、今後、同様な実験というのは、理科の授業ではいくつかございますので、今回のこの実験を教訓として、これからどんな風にそういった実験を安全にやっていくのか、また、理科の教科の先生方ともよく相談をしながら、そして、専門家の意見をしっかりと聞いて安全対策ということを講じながらやっていく必要があるのではないかなと思っております。

草間職務代理者： 前に塩尻で起きた事故の教訓というのは県全体には生かされた形になっていたのでしょうか。

事務局： 岡谷市では、塩尻市さんの事故を受けまして、各学校では、あらためて理科の授業の手順の確認を行っております。実験の際は十分換気を行うとか、教科書に載っている手順をもう一度確認するとか、そういったところを各中学校でそれぞれ理科の事故を受けた後、対応をしたところではあったんですけども、今回こういった事故が起きてしまったというところであります。

藤森委員： 今、お話がありましたが、細かい原因とかはさらにこのまま調べていくというお話しで、該当の生徒さんですとか保護者の皆さんのケアはしっかりやられているということだと思います。今のところ私の認識としては、そういった注意喚起されている中で教科書にある実験をやっているということが起きてしまったということで、例えば、授業をやる方の先生に大きな落ち度はあった訳ではないという認識をしているところですけど、逆にそういったところで現場の先生方の自信を失っちゃうとかですね、そういった部分のケアといいますか、そういうようなところは今のところ特に問題はないのかお聞かせください。

岩本教育長： 確かに現場の先生方は、何かあってはいけないという思いは非常に強く持っておられて、校長先生方にも相談をさせていただいているところもあると聞いております。ただ、教科書にあったり、学習指導要領に基づいた本当に基本的な実験は、やはりこれまでと同様にやっていくというのが大事なと私自身思っておりますし、現場の先生方にも、とにかく安全対策を講じて、是非頑張ってもらいたいという思いは届けていきたいなとそんな風に思っております。今、学校訪問も入っておりますので、校長先生方には、是非先生方が萎縮することがないように頑張ってもらいたいということはお伝えはしております。

藤森委員： こういうことで先生方が自信を失ってしまったりとか、トラウマみたいになってしまうことがないように、是非サポートしていただければなあと思いますし、もちろん学校の授業に限らず、どんな場合でも安全というのは最優先で求められていることですので、しっかりと安全対策ということ、理科に限らずどんな授業でもそうだと思いますが、我々もサポートをさせていただきながら、学校の方と協力をしてやることはやっていけるような体制をとっていただければよろしいかなと思います。

太田委員： 今、藤森委員さんからも話がありましたが、私もそう思いますし、是非何かあったからやめるんだということではなくて、やっていただきたいと思います。その上で、一つだけ気になるのは、岡谷南部中学校で起きる以前に塩尻で起きたことを受けて、注意喚起が出ていたという話を聞いています。けれども、起きたということは、当然考えられるのは、注意喚起の内容自体が何か具体性が足りなかったのか、或いは中途半端だったのか、または、その内容の徹底がなされてなかったのかどうなのか、大きく分けてその二点のどちらかだと思います。ですので、確率としては全国からすれば非常に低いんでしょうけど、確実に起きていることは間違いないことだと思います。

ますので、今回、岡谷市での件も原因の調査中ということだと思いますので、是非その検証を岡谷市として、教育委員会として主体的にさせていただいた上で、より今後に向けて効果のある内容の注意喚起を全国にしていだけるような、より具体性があるものになるような形で検証に協力していくということをお願いしたいなと思います。

橋 爪 委 員： 藤森委員さんがおしゃってくださったところが私も気になっていて、確認なんですが、今回、スクールカウンセラーの対応はあったのでしょうか。そのように理解しているんですがどうでしょうか。

事 務 局： 子ども達の不安があれば、スクールカウンセラーの対応をしますということを学校側にも、或いは学級懇談会の時にもご説明させていただきましたけども、今回はとくに利用がありませんでした。

高 木 委 員： 理科の実験というのは、すごく子ども達にとっては楽しみなものであって、その実験で理科に興味を持ったり、好きになったりするという大きな糸口の一つだと思いますので、今回のことで実験に対して先生達もそうですが、子ども達が萎縮してしまうようなことがないように、やっぱり授業も理科も楽しく取り組んでいけるような、そういう教育であって欲しいなと思っております。

岩 本 教 育 長： ありがとうございます。色々ご意見をいただきましたが、教育委員会としてしっかりと委員さんの意見を受け止めさせていただいて、安全ということについては一層みんなで力を合わせていきたいと思っております。それでは次に進みたいと思います。

2. 就学援助費の単価引き上げについて (教育総務課)

岩 本 教 育 長： 報告事項2について事務局より説明をお願いします。

＜事務局より就学援助費の単価引き上げについて説明。＞

岩 本 教 育 長： これに関わってご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

草間職務代理者： 市外の学校や、私立の学校に通う児童生徒にも適用されるとのことですが、岡谷市にそういう方いらっしゃいますか。

事 務 局： 実際に就学援助費を受給している方はいます。

岩 本 教 育 長： 他に何かご質問等ございますか。よろしいですか。それでは次に報告事項3に移ります。

3. 教員住宅の売却について (教育総務課)

岩 本 教 育 長： 報告事項3について事務局より説明をお願いします。

＜事務局より教員住宅の売却について説明。＞

岩 本 教 育 長： これに関わってご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。
よろしいですか。それでは次に報告事項4に移ります。

4. 岡谷小学校解体工事について (教育総務課)

岩 本 教 育 長： 報告事項4について事務局より説明をお願いします。

＜事務局より岡谷小学校解体工事について説明。＞

岩 本 教 育 長： この後、実際にご覧をいただく訳ですが、ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

草間職務代理： これから廃材などの運搬も始まりますが、説明会の中でも、車が通る時の騒音やゴミの飛散等については、十分注意するようにとのことでしたので、そこだけは気をつけていただいて、事故のないようにお願いしたいと思います。

岩 本 教 育 長： 大事な点だと思います。他にはありますか。それでは、以上で報告事項を終わりにします
次にその他ということで、事務局からお願いします。

○その他

- ・行事等について（各課）
- ＜各課より行事予定について説明＞
- ・その他

岩 本 教 育 長： 続いて委員の中でご報告等あればお願いいたします。

○教育委員からの報告

1. 湊小学校2学年「保護者交流サポート」について

＜橋爪委員、太田委員から別紙資料により湊小学校2学年「保護者交流サポート」のまとめと、この取り組みの名称を「保護者交流サポート」から「なかよしプログラム」に変更することを報告。また、今後の計画を確認し、各学校での進捗状況について報告した。＞

2. ふれあいパトロールについて

＜橋爪委員がふれあいパトロールの際、各学校から伺った課題箇所の把握について事務局に確認。事務局でも課題箇所を把握していることを確認した。＞

岩 本 教 育 長： 事務局より次回の開催予定についてお願いします。

＜次回開催日の調整＞

岩 本 教 育 長： それでは以上をもちまして、6月の定例教育委員会を終了とします。

＜岡谷小学校解体工事現場視察＞

終了12時00分

岡谷市教育委員会会議規則第23条により署名する。

平成29年7月5日

教 育 長

岩本博行

署 名 委 員

橋 爪 園 美

署 名 委 員

太 田 博 久

調 製 職 員

吉 澤 洋 人

湊小学校 2 学年「保護者交流サポート（以後「なかよしプログラム」と呼ぶ）」のまとめ

対象：湊小学校 2 学年保護者

目的：保護者同士、仲間意識を高める

日時：平成 29 年 5 月 17 日（水曜日） 15：30～16：00（30 分）

＊授業参観→帰りの会→引き渡し訓練→学級懇談会（45 分中のはじめの 30 分で保護者交流）

場所：2 学年教室

ファシリテーター：太田博久（教育委員）、橋爪園美（教育委員）

参加者数：対象者 22 人中 15 人＋学級担任＝16 人

ファシリテーション内容：「キャッチ」「なかよし Q」「なかよしトーク」「2 の 1 ウェーブ」

託児：対応なし（同伴乳児 1 名、同伴幼児 1 名。乳幼児同伴のまま実施）

＊後半、同伴幼児が退屈になってしまう場面があった。

振り返り：

- ・事前に、担任の先生との打合せで保護者の状況等が把握できたため、ファシリテーション内容に反映させることができた。
- ・直前の準備で、参加人数が明確でなかったため戸惑いが生じた。参加人数は、できる限り事前に把握することが望ましい。
- ・会場の設営・備品の用意等、当日の準備については、「最後はファシリテーターの責任で行う」という意識をもつことが重要である。
- ・保護者の方たちが（約 1 年前、来入児 1 日入学の折に交流プログラムを既に経験していたためか）ごく自然に抵抗なく参加されている印象だった。
- ・担任の先生の素顔に触れて和む雰囲気が、クラスでの一体感に役立っていると感じた。
- ・誕生月におもしろい偏りがあったり、得意な家事が同じ仲間を知って共感し合ったり、意外な自分の時間の過ごし方を知って感心し合ったり、より深くお互いを知り合う機会となった。
- ・託児対応がなかったため、同伴幼児が退屈になってしまった保護者の方の周囲への気遣いが気の毒だった。また、活動の進行上も難しさがあった。

成果：

- ・より深くお互いを知り合えたこと、輪になって手を繋ぎ「2 の 1 ウェーブ」を行ったことなどを通して、保護者同士の仲間意識を高められたと思われる。
- ・同一の対象者に対して 2 度目の実施となったため、単純な「交流サポート」から「子育てについて考え合うきっかけづくり」へと発展させた内容でファシリテートすることができた（Nobody's Perfect Program の手法を拠り所とする家庭教育支援の要素を加味できた。）
- ・担任の先生や学校側の要望で実施できるようになってきている。

課題：

- ・託児対応は行うことが望ましい。
- ・地域の方の協力を取り込む形を模索して行きたい。

今後の展望：

- ・11 月の「家庭教育学級」で、地域の方を巻き込んでの交流を、同様にサポートして欲しいとの依頼があった。（「なかよしプログラム」の趣旨とは合致しないが、例外的に対応する予定。PTA 三役を交えた打合せを実施済み。来年は学校独自で実施できる方向性を見据えてサポートしていく）